



水生こん虫の種類で、川の水のよごれぐあいがわかるって本当なの

きれいな水にしかすめない、水生こん虫がいる

川の水でいちばんきれいなのは、わき水が集まってできた上流です。上流にすむ水生こん虫は、トビケラの幼虫、カワゲラやカゲロウの幼虫などがあります。これらは、岩についた水あかななどを食べています。このトビケラやカゲロウの幼虫をえさにしている、ヘビトンボ（トンボではなくカゲロウの仲間）の幼虫や、ムカシトンボのヤゴなども、水のきれいな上流にしかすめない、水生こん虫です。

水が少しよごれてくると、生き物の種類は増える

流れがゆるやかな中流から下流になると、水底にどろが増え、水のよごれも、だんだん増してきます。水のよごれは、水中の栄養分が多いということで、すんでいる生き物は、ぐんと種類が増します。水草や「も」なども増え、どろにもぐってくらす、貝やヤゴの仲間、さまざまな水生こん虫が現れます。シオカラトンボのヤゴ、ヒラタドロムシ、ユスリカの幼虫、ゲンゴロウ、ミズムシの幼虫、モノアラガイ、エビ、アメリカザリガニなどです。

よごれのひどい川には、生き物はすめない

よごれがひどい、どぶ川になると、たいていの生き物はすめなくなり、イトミミズや赤いユスリカの幼虫、ハナアブの幼虫、サカマキガイぐらいしか見つからなくなります。

このように、水のよごれぐあいと、そこにすめる水生こん虫の種類は、およそ決まってくるため、見つけた水生こん虫から、その川の水のよごれの度合いがわかるのです。そのため、川の水などのよごれぐあいの目印になる生き物を、指標生物とよんでいます。

（監修・安部 義孝）

